

八州嶺碑がある掬星台





2 徳川道 (幻の参勤交代ルート)

神戸市灘区篠原北町4-6

- ▶ 慶応3年12月7日(1868年1月1日)、兵庫開港にあたり、幕府は兵庫および神戸を縦断している西国街道で生麦事件のような外国人と大名のトラブルを避けるため、突貫工事で作られたバイパス(当時は徳川道とは言わず西国往還付替道と命名)を作ることになりました。完成は、兵庫開港日と同じ慶応3年12月7日(1868年1月1日)です。しかし、1ヶ月も経たずに勃発した鳥羽伏見の戦いが始まり、徳川道の完成は公表されることはありませんでした。明治新政府で居留地を迂回する新道が造成され、幻の西国街道のバイパス(徳川道)は歴史の舞台から消えました。公表されなかったため、神戸事件(外国人と備前藩との衝突)が起り、幕府の心配事が的中したのです。



徳川道の略図 www.kcc.zaq.ne.jp/dfczu104/tokugawamiti.3.htm より引用



3 長州藩兵庫警備陣営跡/海蔵寺

神戸市灘区国玉通3-6-3

- ▶ 海蔵寺は延喜元年(901)に開基され、明和3年(1766)から肥後細川藩主代々の祈願所だったそうです。また、加藤清正像もあったそうですが、阪神淡路大震災以降姿を消しました。安政5年(1858)6月、長州藩は幕府からの信頼が厚く、天領(幕府直轄領)である兵庫の警備を命じられました。具体的な警備の範囲は武庫川の西から須磨までで、3000人の兵力が動員されました。本陣を芦屋の打出に置き、各所に駐屯所を配置しました。文久3年(1863)3月には、海蔵寺および寺と隣接している河内国魂神社境内に陣屋を作りました。1200名が配備され、付近の民家に分かれて分宿したそうです。訓練も行われ、洋式を用い楽隊入りだったと長州藩の記録に残っています。文久3年6月、長州藩自ら願い出て国元へ撤退します。禁門の変の後には津山藩、尼崎藩が警備にあたったそうですが、まもなく警備は解かれました。

